



古易商所序



五運三紀之書以久矣

萬曆庚午四月

庚午四月

其



古易術類序



五運六氣之惑入其友
萬解不可得而端倪亡。
歷代史經及秘檢詳矣。
然堅猶尚有惑者。鑿

獨基者期局而達通也
遊獸多陷也。少林無山
書從乃考。交動井白。幾
之易傳。精窮。歷年業
量進而請。占者曰。望門

擊家每遇。疑似之卷。必
來。向。痛。力。端。著。刮。初。意
強。神。項。逐。著。辨。在。小。白
之。者。右。曰。古。易。病。野
鳴。呼。因。此。求。之。則。獨。見

歸胸於橋一方名若使白
城與九原則起奈之輕
其立助人所刻成已序
為題題言云子母安
初令楚田良撰



古易病新目錄

○八卦之部

☰ 乾一天 七 ☱ 兌二澤 八 ☲ 離三火 九

☳ 震四雷 十 ☴ 巽五風 十一 ☵ 坎六水 十二

☶ 艮七山 十三 ☷ 坤八地 十四

○六十四卦之部

下卦ノ乾ニスル卦如左

☰ 乾為天 十八
☵ 澤天夫 六十八

☲ 火天大有 九
☳ 雷天大壯 七十四

☴ 風天小畜 三
☱ 水天需 六

☶ 山天大畜 六
☰ 地天泰 十一

下卦 兌 如左

☱ 天澤履 七
☱ 兌為澤 九

☲ 火澤睽 七
☳ 雷澤歸妹 五

☴ 風澤中孚 九
☵ 水澤節 八

☶ 山澤損 八
☱ 地澤臨 三

下卦 離 如左

☲ 天火同人 九
☵ 澤火革 九

☲ 離為火 九
☳ 雷火豐 九

☴ 風火家人 九
☱ 水火既濟 六

☶ 山火賁 九
☲ 地火明夷 八

下卦震如左



天雷无妄 天六 雷六



泽雷随 泽六 雷六



火雷噬嗑 火六 雷六



震为雷 雷六



风雷益 风六 雷六



水雷屯 水六 雷六



山雷颐 山六 雷六



地雷复 地六 雷六

下卦巽如左



天风姤 天六 巽六



泽风大过 泽六 巽六



火风姤 火六 巽六



雷风恒 雷六 巽六



巽为风 巽六



水风井 水六 巽六



山风蛊 山六 巽六



地风升 地六 巽六

下卦坎如左



天水讼 天六 坎六



泽水困 泽六 坎六



火水未济 火六 坎六



雷水解 雷六 坎六



风水涣 风六 坎六



坎为水 坎六

山水蒙 二九
地水師 二九

下卦 艮如左

天山遯 二九
澤山咸 六六

火山旅 二九
雷山小過 二九

風山漸 二九
水山蹇 二九

艮為山 二九
地山謙 二九

下卦 坤如左

天地否 二九
澤地萃 二九

火地晉 二九
雷地豫 二九

風地觀 二九
水地比 二九

山地剝 二九
坤為地 二九

目錄終

附言

○此書病狀往來緩急ヲ知ル規則活例ニテ占斷
死生ノ關係スル處尤敬言嚴ヲ要ス覃思研稽ニシテ
晝夜各冬象義ヲ詳密ニ引テ神類ニ觸レテ
病候ヲ明察シ人命ヲ悞セテナカレ

○往ヲ明ニス來ヲ知ル是易ノ本旨ナリ故ニ病者ノ
男女老少虫爰病ノ新舊ニヨリテ活變アリ記述スル

豫ニ死活時日ヲ決シ醫人ノ過否ヲ察シ的藥
ヲ得テ一生路ヲ示スカ如キハ書ニ盡シガタキノ
活境ナリ口訣ヲ得テ知ベシ

○病家自己ノ妄心ヨリ招キ來ス怒魂滯魄ノ
障碍又ハ狐狸ノ為ニ狂惑セラル等々ノ事ヲ
以テ初學奉承ノ斷ヲナスヘキニテ口傳ニ存ス他ノ
俗易者一時ノ輕病ト云氏鬼神ノ靈氣ニ託ス類ト

同日ノ論ニアリテ、入門ニ入テ、悔悟スヘシ。

○坎頤雜占、徒專世ニアリテ、聚斂ヲ得シカタシニ、
先師内人ト偽リ、紛々トシテ古易ト稱シ、其術トスル
処、生刻ノ説ニスルテ、放肆妄漫、書ヲ著シ、世ヲ惑
經ニ其臆所奸偷、載テ其書ニアリ、古易執心
士、服カテ長シ。

男 華洲貞安草定識

古易病斲卷之上

新井白蟻先生精蘊

仲有斐齋先生遺言

富澤吉哉先生傳授

函山 小林左傳欽錄

○卦爻配列動靜概活病斲用矩


夫百病ノ起ル、其因一ニアラズ、風雨寒



暑。清濕喜怒。ミナヨク。其病ヲ生スルト云。
然ルニ風暑清喜ハ。陽ノ屬ナリ。而寒
濕怒ハ。陰ニ屬ス。陽ハ陰ト共ニシ。陰
ハ陽ニ和スル。是ヲ常トス。陰陽相持ツ。
是氣血相争ノ起ル処ナリ。故ニ陽ソノ
類ト併スレバ。陰亦其明ヲアツメテ。以
テ相ニ激シ。陰ソノ黨ヲ合スレバ。陽亦

其彙ヒヲ引テ。コレヲ征セントス。蓋シ人
身ノ常ナルヤ。氣血升降。昼夜ノ度ニ
カナヒ。呼吸動脈。自然ニ漏刻ニ應ズ。
ベレ。若シ之ニ違ハバ。軀常ニ非ズトシ。氣血
亦其行ヲ違ノヲマリ。其常ヲ知ザレバ。
其變ヲ言ベカラズ。故ニ脈ノ浮ハ陽ナリ。
沈ハ陰ノ如キ。コレ常ノ短トス。マタ病

アレハ、臟腑必ズマタツ子ニアラズト云
 故ニ六爻ノ位置ニヲヒテ、腑臟ノ配
 列ヲ、理會スベシ。假令ハ、肝タニ之ケバ、
 田風相薄リ、腎脾ニ之ケバ、其象ヲ
 師トシ、居レバ則チ、象ヲ觀ズル
 所以ナリ。物極レバ、カチラズ變ズ。脾
 マダ、將ニ之クすハ、脾藏極ル。脾ヲ坤ノ

屬トス。坤々ニ究ルモノハ、刺ニ象ナリ。
 是ヲ陰ノ極リテ、陽ニ似タリトス。
 乃チ、坤ハ陰ナリ。上六モ、陰爻ノ位ナリ。
 其病ヲ陰證トシ、ソノ部ヲ臟病ニ
 マルトシ、其極ニ至リテハ、外體良ノ一
 陽、表層蒸熱、甚ダ劇ニシテ、大ニ陽
 病ニ疑ハレ、是假熱ニシテ、真寒ノ

病トス。故ニ龍野ニ戰トシ。陰陽相
薄ルトシ。其血玄黃トス。是ヲ陽トシ。
碩果食ハレズ。表面ノ  夫ニトレバ。
莫シ陸ノ粟汚。決リサクルトス。故ニ
治方ニ取バ。陽病ヲ療スルノ例ニ
コトナリトス。若シ假熱ノ虚炎ヲ
見テ。誤テ陽病ト断スルナハ。火

反掌ニ有ベシ。陰ヲ以テ治ルノ微ヲ
言バ。永貞ニ利アリトス。是ヲ推テ脾
肝ニ之ヲ断ズベキニ。又肺ノ肝ニ之ヲ
者ヲ云バ。兌ヲ脾トシ。震ヲ肝トシ。其
象ヲ  歸妹トス。是肺氣次序ニ
傷ハレテ。愈々鼓動スルトス。若クダ
飯味ノ  大壯ニ之モノハ。肺氣極マリ

肝氣上衝。心下痛。一層ノ刺ヲ
ソユルト。斯ズベシ。是克ノ乾トナリテ。
克肺。イヨク張リ溢ル。爰ニ於テ大
トス。サカンナルモノハ。震雷ノ天上ニ震
ナリ。故ニ肝氣高ブリ。肺氣傷ス。羝羊
落ニ觸テ。其角ヲ羸スヲ見ルベシ。是
動ケバ。則テ其變ヲ觀テ。白ヲ玩ブノ

ニヘンナリ。坎一ニ例ヲ以テ。活脈ヲ發スベシ。
六十四卦ニ於テ。區々ノ注語ヲ加ヘズ。是ヲ
以テ類推スベシ。能クニ。漢智ヲテラレ。
八卦ノ奇屬ヲ玩ソビ。六十四卦ニ於テ。柱
來ヲ見ルキハ。居ルモ。動クモ。必ず其因ヲ
シルベキナリ。能ク爰ニ至敬純誠ナラバ。則テ
其因ヲ知ハ。已往ニアリ。其證ヲ觀ルハ。柱

象ニ存シ其極マル處フミルハ逆教ノ來リ
 示スフ其象フルニヤリ易ハモト陰陽ノ象ノ
 視テ理ヲ會ス醫ノ病ヲ診スルモ陰陽ヲ
 捨テ考フベヤモノトシ病ノ緩急昧ノ柔
 剛ミナ陽ト陰トニ於テ相照ミ來テ工
 拙ノ判ル、處ナリ是ヲ莖ニ問ズト云トモ
 病證ニ於テ卦象自然ニ存シ脉ニ因テ

理ヲ會セバ亦是醫ノ心莖ナリ故ニ彼亦ハ
 云ルヲアリ著ヲ執リ莖ニ問ニ非サルモ象ヲ
 視、理ヲ推テ君子日用ノ進退ニ敵ズベシト
 コハニ莖ヲ用ヒテ病ヲ斷ズルヤ其見ザル處ヲ
 以テ聞ザル處ニ察スルノミ醫ハ既ニ是ニ云
 其色ハ赫々トメ火ノ如ク脈ヲ按ズレバ滯大
 洪數ナリ肌膚大癢燒カ如ク不大便ニメ

小便赤ク澁リ冷水ヲ飲テ九フ斯ノ如ノ
 類是ヲ診シテ陽病ノ安夏ナルモノトセバ淺メ
 瘥ベシ是ヲ莖セザルモ亦京山カ謂ニアラスヤ
 故ニ謂至誠以テ望マバ何ゾ陰陽ノ象
 義ヲ違ハシ唯至敬純一ノ境ニ到テ斗杓ノ
 建ス処人心ヲ照サント云尔

○古易病漸卦解

○八卦部属

乾

乾ハ陽ノ義ニユリテ陽證ノオミナス
 陽ヲ熱トス乃チ子ヲ子ト取○又乾ハ

万物ノ始メナレバ是ヲオミ背ノ初ニル
 アリ是内外卦及ノ組合按排ニユリテ時ノ
 活用アルヲ云○若シテ極リテ變ゼントスルノ類
 ○或ハ急ニ危候ヲ豫セシテ去ノ類隨時ノ急アリ

○首

逆ク身ニ取ノ例ヲ首トスル
 或ハ上部ニ屬スルヲ推ベシ○骨

坤ヲ内トスニ對
 シテ乃チ骨ト取

○肺

五臟ノ部也
 肺ハ金ノ属○鬱閉

思慮ヲ主トシテ卦象
 盈満スレバ過傷ト取

○狂氣

變化シテ常
 ナク是リナキ

氣ノ發
○惡寒
肺ハ皮ヲノ氣ヲ正ナリ
乾ノ氣ハ寒ニシテ
然タリ故ニ去

○譫語
其音ハ陽ニ發スルナリ
乾ハ變化シテ
其氣常ニ成ニ音ヲツキテシ

○傳洩
陽ノ徳ハ施シテ息ズ故ニ
○大發

熱
表ニハ大ニ
○悶絕
呼吸一スニ絶

○中毒
陽ハ必ズ陰ニ過セノ
○諸病甚劇

之候
陽ハ升リ乾ハ盈ルナリ
○奇病之

類
陰ハ強ク久陽ハ揚ナリ
○證候

不定
陽ハ動ヤ周流シテ
○急病
陰ノ強ニ

○氣病
陽ツツ氣トス
○脈浮大洪

○結代閉絕
口傳

兌
類トシ或ハ肺氣懸ニシテ其色已ニ白ト

○口舌唇
スレノ類應爰
ルオテ口ニ傷ス

○輔頰
又ハ齒ノ疾ニ死

三ノ口ナドノ類

諸般雜症

○肺 五臟ノ一位ニ配スルノ明 ○咽喉 梅核 喘

咳嗽 痰飲 氣逆 是トナシ肺ノ位ニ配スルノ明

咽喉 喉ノ根ヲ指シ 痰飲 痰ノ積ルヲ指シ 氣逆 氣ノ上ルヲ指シ

於テハ氣逆ト取リ ○食飲不進 食傷

噦 吐逆 吐トナシ ○語言

艱澁 口ニシテ ○惡寒 金氣ノ行ハ

○戰慄 金ノ義 ○小瘡之類 家ノ義

水濕ノ情象 ○打撲損傷 毀折トスルノ情象ナリ ○頭瘡 家ノ義

○瘡 漏ツル義ヲ推テ ○外來感冒膚表

粟起之類 一陰上ニツリ冷來ノ象ナリ

○脈 滑 理象 浮者短小而沈者實

大之類 卦徳ノ像

離 火ノ義ヲ推テ熱トシ體ク離ルノ理ニ因テ心氣不定ノ象ヲ考ベシ

石部海府

○目

眼ノノチ一 ○心 五臟ノ配列又

○時疫

火ハ初ニツキテ

○心氣不定

火動テ定ムルコトヲハナシ

候ニカズ

○上衝 火ハ冬上

○内虚 意ニ

○疹 花癩ノ像

○妄語 海濱ニテ

○越稿 音ニ高

○血暈 心血コレニツキテ

○越稿 音ニ高

○越稿 音ニ高

手足肢末有力而内益虚者

此卦ノ象

挂々此ノコトヲ作用スルハ ○胸痛

脇支滿 兩臂疼痛

是皆三ノ部

○若其虚者胸腹虚脹脇下與腰相

引而痛

是フハナレ彼ニツキテ邪

○氣煩

惡熱

心火ノ情象ハ煩シトス

○脈洪

乾

元ト交基ナレハ惡熱トス

○浮虚

或陽

詰

意家

震

急卒鳴鼓ノ声。或ハ疎ガシク。或ハ怒志
肝鼓ノルイ。ビロク活用スベキナリ

○足

身ニトルノ例ナリ。コレヲ推テ足痛又ハ
脚氣。霍亂。比ノ類。ビロク考テアベシ

○肝膽

臟ニ配スルノ例ナリ。但シ震。震ノ
ハ肝。胆。同ク肝膽トシ。乾。乾。亦同ク

部。金トスル等ノ義。フゾ是ヲ知テ。六十四卦往來
動靜。夫ニ陰陽ノ交。故ニヨリテ。震。震。ノレハ。震。震。

トシ。先ニ肺ヲ言ハ。乾。乾。ハ。氣トスルノルイ。皆
用治ノ則チ。外。通。外。通。ニ。由。テ。皆。卦。々。タリ。○髮頭

ノ類。傍。象。ナリ。又。震。フ。震。少。キ。ト。ス。ル。像。震
對。ニ。ト。リ。テ。ハ。髮。方。キ。カ。或。ハ。人。示。セ。テ。カ。ク。メ

如。干。竟。志。○虚驚為 或ハ。連。ハ。ル。沃。ゴ。ト。ク。ラ。フ。シ
類。推。ス。ベ。シ。○虚驚為 或ハ。連。ハ。ル。沃。ゴ。ト。ク。ラ。フ。シ

ヲ見。或ハ。隣。ノ。音。歌。○声音高 呻吟。或
オド。ロ。ウ。キ。音。歌。○声音高 呻吟。或

或ハ。叫。ビ。或ハ。音。音。シ。或ハ。○戀慕態 目
眼。中。怒。キ。人。ヲ。呼。ノ。ル。イ

相。想。フ。ノ。ル。イ。或ハ。一。ズ。イ。ニ。物。ヲ。逐。ニ。ト。思。ヒ。從。
性。急。ノ。ル。イ。是。ラ。ノ。フ。打。ハ。モ。リ。テ。人。根。基。ヲ

確。シ。○怒氣數動 怖態 躁狀不
十。ス

止 是。著。シ。テ。震。ノ。虚。驚。○積塊發動
動。テ。安。カ。ラ。ズ。ル。ノ。傍。義

脚氣上衝 耳聾 氣逆 筋響急

凡痛眼疾 四肢酸痛 寒熱往來

古易新訂 卷上

胸中悸 顛狂癩

已上ノ諸證多端ノ如クナレバ或は癩ノ部ニ

肝ノ用ナムヲ震ノ針ノ

○脈

弦緊肝ノ

沈數

或代脈

反間ノルイ考フベシ

巽

テラツツ井テハカドヲ又チ或ハ當在クキノチ氣トシ或ハ今日ハ頭癩類ニハ腦癩類ニ

昨ハ氣ヲセグ

○肱股

身ニ取ノ倒ナリ是チ推テイテ各ブルルイ

○臀癰橫痃 鶴膝 歷節風

或痛風 魚口便毒之類

腫脹チアルハ洩チ推又肝ハ

筋ニカ、ルノ義ヲ傍象スルナリ

○百合病

狐惑病

已上進退果サズハ傍象ナリ其地裏推スベシ

○上衝

怔忡

風痰ニヒテ安カラザルノ義

○痺痿

氣鬱

身體不仁 卒中風之類

已上三ノ風ハ肝ニ屬ス故ニ風痺ノ

ルイヲ推ス氣ヤツノ如キハ外ノ像象ヲカスルナリ

○脫肛 痔漏

下痢 轉失氣

已上像象ヨリ意象ニ又ノ妙境ナリ

○血虛

眼暗 髮落之類、可活推

坎上ニ塞リ
下ニ洩ル

ハ、血虚トモ、白眼、及キハ、暗ノ情、家、カニ少ナキ
ハ、赤ルノナス処ナリ、流テ針及ク、ウロウロト初、子
慣スレ

○少壯而、髮或斑白、或大病

瘥後、鬢毛不長之類、

已上マ、タ、刺、針、ノ
情、義、ヲ、推、象、ス

○小兒疳疾、眼中灰白青色、多喜怒
而愁悲慘悽、頓催、或飲食忽好之、亦
卒然惡之、連、退、果、サ、ズ、コレ、ヲ、肝
ノ、部、屬、ニ、求、ス、テ、也

○脇下

陰々痛

肝ノ部
高、空、ス

○頭痛

情、象、ニ、シ、テ、
情、義、ヲ、辨、ス、

嘔吐

像、象

○惡風沈々而不離牀之類、

連、退、果、サ、ズ、コレ、ヲ、肝
ノ、部、屬、ニ、求、ス、テ、也

レ、ラ、ク、イ、ハ、ナ、ク、
天、宿、電、ノ、

○大人瘥、小兒慢驚、

已上、
不、定、ノ、情

家

○直視

白、眼、ニ、シ、テ、
情、象、ナ、リ、

○肝積發怒、而

毀物、則快然靜、或叱咤人、而忽悔之、

低頭默々、不思飲食之類、

肝、ハ、肝、ノ、部、ニ、シ、テ、
其、ハ、連、退、果、サ、ズ、

其、ハ、連、退、果、サ、ズ、
其、ハ、連、退、果、サ、ズ、

○陰痿

陰、伏、
情、象

情家 ハト極マレ ○燥熱 ヒツムヲ極マレ ○脈

浮虛 肝風ハ眼 沈緊 一按二陽ノ下ニ入

虛細數 陰伏スルノ

坎 血結シテ物ヲ成シトシ或ハ神氣瀦滯シテ

耳 身ヲ取レ例ヲ推テ或ハ耳鳴ヲ聲ノ假トシ

腎 臟ニ配スル例ヲ推テ夢交ト取或ハ露精

血 坎ヲ水トス人ノ身ノ血ニ取 ○妄語

臥而不能起 陰伏ノ情

厥冷 水ノ轉

水腫 陽ハ弱シ陰ハ衰ヲ ○泄瀉 水ニ春走

○譫或耳鳴而膿汁出痒痛之類 邪ヲ腎

○血熱妄行

血腫不知人 經水有變 熱入血室之

類 已上皆水行或滯或流此証也
亦曰注水通約通來類推之
○內癰之

類 此血結心下解之
腹裏云云スズノ家ナリ
○重身胚腫

陽神 喘咳身重 皮膚汗出

惡風 腎氣不通
後此候ニ極ニ也
○黙々不樂 陽氣

○為欠為噎 陽沈之文上下ニ
爲之候ニテタテノ家ナリ

○骨節疼痛 吹テ高多ニトス
腎亦骨ヲ主ル
○膀胱所

屬之病或痔瘡之類 濁汚血結テ汚トテ
瘡ト云腎ハ吹テ候ニ也

膀胱心下ニ通ス
吹テ候ニ候家
○齒痛 吹腎ハ血ト骨トニ屬
スルノ候家ニ

○腰痛痠之類 腰ノ口ニハ腎ニカユリ
痛ヤクテ 時節腎水ノ間ニテナリ

○瓜 沈 牢 堅 細 教 皆取陽ニ屬シテ
吹テ候ニ對家ニウラス

良 疾痛アリテ 疵アリヤ 腫物起ルカ或ハ氣ノ
痛ガリテ人ニ對スルヲ 尿ノルモ考ヘ合ヌベシ

○手 身ハトシテ例フ 推テ 腕肘肩ニ及ビ 筋ノ
寸ニ屬スルヲウラスニヤナリ

○背 此中ノ石ハ肉
中ノ赤子ナリ

○鼻 面中ノ山ナリ
赤氣推スベシ

○胸膈中 腸明ノ受リ ○悸動 留氣

痰癖 大小結胸痛 胸痺 飢胃

痞滿 積聚 薶塞 結核 痞癭

瘰癧 此ノ開關トシ、ホトシ、閉トシ、積聚トシ、

○為疝 為諸痛 打撲損傷之類

破傷風濕角弓反張之候 已上、冲ノ内

○肉痿 足不攷行、步走

艱澀 痰ノタイスガ ○食不化 胃土ノ化行ヲ

○四肢重、不使用 陰ヲ濕トシ、長ク此トシ、

○頭痛眼暗暈 一陽、上ニ在テ、

○濕襲 上ニサガリ、下ニ輕ク、明クナラズ、是ヲ

○背在病 陰ハ、湿ニシテ、内ニアテ、陽ヲ

○腋代 如メテナレ、

弦 彈石 結 已上、覺來テ、家象。

本草綱目卷之九

坤 状ノ如ク。或ハ淫變。腹痛。少陰。少陽。或ハ

通考ス ○腹 身ノトセノ例ナリ。是ク推

考ス ○脾胃 脾胃ノ配スルノ

○飲食停滯 脾胃

○磨爛敗汚液出而不

止 乳肉ノ間ニ湿留者シテ

○小兒疳

勞 脾ノ行

○四體沈重 陰ハ倚ルモノハ

○腸鳴飧泄下

痢清穀者 坤腹ヲカキ。脾胃化セズレバ

○少起多臥 陰ノイニ或ハ

○黃胖濕腫之類 腹中

陰證傷寒極而似陽

證者 陰證傷寒極而似陽

其血支黃ト云フ 陰證傷寒極而似陽

○脈 沈遲澀 虛軟 或不應

指頭

已上八卦部屬終

○六十四卦用矩之辭

☰ 乾 新氣滿溢 一身之氣 此卦特

无ト陽氣ヲ 虛乏又ル也アリテ 邪氣其處ニ

來リテ 外ニヨリ 内ヲ犯シ 内ニ極リテ 熱氣盛ニ

表ニ溢ル ○頭痛シ 寒熱往來ス 諸語ヲ疾シ

或ハ冒シテ人ヲ知ズ 或ハ卒然トシ 身體不仁ノ

類 誤メ陽證多ク 却テ内虛ヲ乘ス 但ニ他

卦ニヨリ 是ニ來ル者ハ 殊ニ危厲ヲ 斯大治方モ

...

赤豆クハ急救ノ例ニ由ルニシ

初 卒然トノ自利清穀○頭重ク足輕ク
臥テ起ツテ能ハズ○寒熱互ニ發シ或ハ嘔
胃或ハ卒中風ノ類○若シ小便快通ノ者ハ瘧
候違ナリ○臨産ハ安シ

二 時氣流行ノ病或ハ赤疹發斑或ハ外
來病ト持病ト相傳リ大熱腹痛婦人ハ血熱
男子ハ痔ノ類假令現證輕ニト云テハ違
く大病ニ到ルベキノ候ナリ

三 裡來寒熱時々發作シ肺氣燥燥ノ候
咳嗽吐涎痰功急ニ暴シガタシト云フ類其ヤマヒ
小陽ニ在ガ如クニ人選テ肝ト腎トニ攝着シテ
或ハ腰痛或ハ小便不利駿劑ノ甘茶ヲ與フレバ
及ヒテ嘔氣ヲ散シ泣ツ笑ヒツ全功ヲ見ガタシ

四 寒米ル片ハ只厚ク覆ヒテ戰慄シ、然來氏ハ
怒ニテ怒ルカ如ク、狂スルニ似テ、直ニニ林ヲ起テテ
戸外ニ出ントシ、又心下苦悶メ鬱鬱官スルカ如シ、
時ニヨリテ已ニ災瘴ニ列ルカト思テ、又然ルニ非ス、
此候心肺ニカル證多シトス、マサニ應スル茶
アルベシ

五 大發熱メ渴キ、冷水ヲ飲ント欲シ、熱火

蒸々トメ、撮氣マタル方ラス、面赤ク、頭痛甚ク、
小便流リ、大便秘シ、或ハ鼻衄、或眼臉疼、
之、梳テ陽證極マルニ似タリ、米メ急救ニ或ハ
下劑ヲ投セントスバ、却テ内虚ノ陰ニ陷イル処
アリテ、證脈相對セザルハ危候トス

上 頭痛甚ク、嘔逆アリ、咳喘強テ、苦飲
食スニテ、神氣微弱ニヨリテ、滿月ニ及ベ、更ニ

小瘥ヲ得サル者危篤トス。若シ急病頭ニ
大痛ト稱スレ者ハ、或ハ吐シ、或ハ發汗シテ愈
ルイアリ活斷ニ存ス。口傳

坤

陰證トシ臟腑ニ偏スルトス故ニ多クハ腹
裏與胃ニカシトシテ治テ沈ミ熱ミ、毎

濕陰相犯レ脾胃氣薄弱ニメ、四肢力乏シクメ、
起ツコウ少ク卧ス時多ク、腹中絞リイタメ、或
飲食停滯シテ化セス、濕毒ノ類他人ヨリ

傳染メ、今ハ既ニ沈痼トナルノ候、寒、濕、性
中寒ニ、或ハ陰症傷寒ノ類、小兒疳癖ノ
類、治方陽劑ヲ投スル候、多クニ左ス、然レモ
峻劑ヲ服フ證候アリ、故ニ寛治ニヨリ、區
ノ功驗薄キガ如シ、故ニ沈々トメ瘥ルヲツキ
斯スベシ、若シ瘥寒ノ苦味ヲ以テ一旦ハ功ヲ
奏スル、之ヲ用テ日ヲ引ク、危ニ是亦一證アリ

陰陽調理ノ境ヲ坤ノ腹診ニ於テ摘言ス
書ニシ難ク意ヲ言得ザルノ境ハ訣推卦ニ存ス
初病候必ず往來アリテ證一定ス持病候
動レ或ハ忽チ足ノ筋急ニ疼ニ初ハ輕キ
一ニ見レレ捨テケハ重キニ至ラン

二腹痛血塊腸鳴時々變テ發ス且又短ク
カリ腎部ヲ病ハ其證厥陰ニ在トス

三寒翌日嘔ノ頃ニ發ス腰脚骨急病
癢動クトス腹下痛或ハ腎部ニカレ

四陰證極マリテ陽ニ似トスル候出來ルノ
始トス躁モテ安カラズ心氣驚キ怖ルガ如ク
或ハ沈思シ或ハ大怒シ着病人似ノ者手ヲ
休ムルヲアタハズ○臨産ノ右安シ

五頭痛鼻血ヲ流スカ蹠ニナリ衣被ヲ去

シトレ。温黄ヲ汗黄色カ。腹大ニ滿テ小便
不利カ。神心恍惚トメ危篤トス

上譫言。妄語。嘔逆。頭ヲモク。或ハ身ニ
イタム処甚ダモクシテ。動クコト不便ナリトス。
度々引ツケテ氣ヲ失ヒ。又甦リ。病候
既ニ爰ニキハマル。假令病ヲ治スルノヤホ
下リトモ。速モ身解タモテ。カタキク疲

勞トス。○急卒ノ病ニハ。速ニ治スルノ活斷

アルベレ。レ傳



屯

全卦受胎ノ初メトス。○ノ衝ハ乃チ大難
始トシ心痛。胸痺。或ハ脚氣ナリ治用

肝積。發セントメ先テ閉ギ。是ユリ筋脈鬱急。
足心痛ク。時々寒ノ怖シテ神氣閉塞。動悸
イマテ耳鳴等ノ傍證多シ。是皆肝腎積

初其證。脚氣轉筋ト云々如ク。是ユリ時々

肝候ノ病

心悸ヤレテ安カラズ○或ハ肝脾ノ始ト是レ時

二腹鳴テ胸中痺ス是レ肝氣ヨリ血分ヲ

侵ス燥ヲ思ヒ腹下痛ミ小腹引キ或ハ怒氣

三寒熱往來四肢酸疼或ハ怒氣性急ニ

テ病候刺シ忽チ筋急ニ引キツリテ苦ハ

四上衝シテ耳鳴リ齒グキ血出鼻痛ミ

面部ニ浮腫心下ヨリ腹ニ響キ痛足及テ

五盜汗出テ惡寒シ頭重ク眼暗ク時々

眩暈ヒ意氣伸ビズ欠ビシテ淚出テ氣血

兩チカラ閉テ病候危シ然レバ大汗シテ後

癢ヲ穢ラレベシ良薬ヲ求ムベシ○或ハ難癒

思阻ノ始メトス

上肝ノ鬱已ニ鮮ントシ血分ノ邪漸ク最

ゼンテ始メテ足起ツテヲ得シ然レバ未ダ

全愈ヲ断ハリカタシ。瘧テ後ノ勞復ヲ慎ミ



蒙 氣血ノ升降ヲ阻テ神志ヲ塞ギテ
小腹放リ痛ム尺持保火効ナリ

下痢アレンレ却テ胸腹ノ裏ニ熱ヲ畜ヘテ

頭眩シ脚弱ニテ行步勝ヘズ。總テ神氣

薄ク食進マズ。病内ニ伏ス。○外來病トシ

伏暑カ申寒カ。温疫ノ初カ。良薬ニテ治候在

初陰證膿血痢。○頭重ク卧メ起ソコト

能ク或ハ小便不利。壅腫痛引テ腹ニ及トス

二小腹不仁ニシテ身重ク陽氣乏シトス

両脚浮腫起フテ額ハ温熱。痰黄ヲ怖ルベシ

三腰痛シテ風ヲ惡ム。腹下引痛ミ。頭重ク

心神大ニ塞ギ來テ本性ヲ亡フガ如シトス

四惡寒ノ中ニ熱ヲ發ス。其寒ニテタレバタレバ

閉ギ覆フテ又發出ル所ハ心氣不揃ニナリ

忽チ胸脇ノ痛ム。口中燥シ。小腹ヨリ脇下ニ及ビ
胸ヤキマデハ胸張り。サシコエ。苦シムトス。

五 燥ミトメ寒ヲ惡ム。頭ゾ空シ。足ヲ屈メ。
只厚ク覆ヘド。猶衣被ヲ求ム。或ハ又痿身
イタミ。四肢寒ク。急シテ。痛風ニ似ルヲアラン。

上 濕熱。頭痛。軀ノ色。黄バシ。汗自ラ出テ。
腹滿シ。痿身浮腫ス。良ホホヲ撰ニ。濕ヲ洩

シテ。治スシ候ヲ庶幾スベシ。

○屯ハ蒙ヲ兼。又蒙ハ屯ヲ兼テ。互ニ其象
義ヲ談スベシ。而ノ裏面ト。中卦ニ及アベシ。
每卦皆如此例。通考スベシ。



需

卦候合ハ。變フ。内ニ包ミテ。求グ。疾
セズト云。五ノ井降。久シク待トス。

邪氣ノ上部ニ凝リタルヲ。一朝一タニイラス。
故ニ。イワレナク。氣分閉結シテ。耳鳴。眼中

滑ヲ含ミ。或ハ咳出シ。痰滯リテ。咽中快
カラズ。兩便狀通ズ。時ニ蒸熱ノ心地アレド。
汗ノ發ミザレ。汗ハ只神氣ノ鬱スルノミナラシ。
故ニ長痛トス。治方モ。急遽ノ劑ハ却テ背ヲ
トス。是ヲ寛ニスレバ。亦治スル候ニ候レシメ。故ニ
亦難治ノ證トス。○胎孕ノ古ハ月ヲ延シト
ス。怖レテ。虞スベシ。各及ニ略言ス。

初。心下痞。小水波リ。或ハ壅豚痛シ。濁液ヲ

洩ス。○一旦下利ノ快ニ似テ。復同ニカルベシ。

二。甚危シ。血證アルカ。骨節痠ユルカ。外層

冷シ。脈象變シ。又忽チ。外寒外熱アルベシ。

三。食飲不進。或ハ腰痛シ。嘔氣アリ。必ス

心下痞硬シテ。脇胸サレコミ。病苦楚痛多シ。

四。妄語ヲ發シ。或ハ嘔吐シ。或ハ脈血ヲ便中

下レ、或ハ耳聾シテ、上逆ス。○臨産ハ速ナリ

五小瘕ヲ得テ、忽チ又甚キニ到ルヲ恐ルベシ

安危ノ岐ナリ、不食ハ危シ、食スル者ハ保タシカ

上首低レ、足搖レ、汗出テ、身冷エ、救ヒ難キ

程ニ見ニ、若レ新タニ風邪ヲ帯タル者ハ治スル

候アラシク、○臨産ハ、巳ニ生ルベキノ期、迫ルトス



訟

氣血相争ク、手候ハ、易カラザルニ候ナリ、然レバ、其ソムク処ヲ、和ス片ハ治セン

其初メ、思望スル処、遂ズ、神志驚結シテ後

此痛ヲ醸シナス、或ハ外邪、伏シテ解ビズトス

肺ト肝ト腎トニ於テ、醸シテ熱ヲ生ズルニ在リ

是肝血ノ結ヲ解キ、肺肝ノ緊張ヲ和スルニ

乃チ愈シ、○胎息安シ、臨産ノ安危ハ、治断アリ

初諸病、一旦ハ危キガ如クナシ、預ニ治セン

○臨産ハ、艮ニマアラン

二病大ニ疾セント見ヘテ、乃テ愈息休スベシ
是解セントノ、一タモ動キテ後ニ治候ヲ渴ベシ

○産安アラズ

三惡寒、發熱ノ後、腹痛瀉下ス、其人真
元ノ陽氣實スルユヘニ、邪ハ正ニ勝ズ、瘧トス

四已ニ瘧ントノ、食飲ノ養養ナリトス、然ニ
ヨリテ、再發ヲ慎ベシ、腎邪ノ患ヲ引キス

○孕婦ハ流産ノ用心アルベシ、臨産ハ既ニ
生レン

五瘧テ後ノ保養宜ヲ失テ、發熱スベシ
調理ヲ慎テ本ニ復セン○臨産ハ易シ

上寢汗出ルヲアラシ、是又其人ノ保養宜シ
カクザルヨリ、舊日根ヲ動クセズ、慎ハキハ治スベシ



師

急ナレバ大ニ危シクモ、若シ月ヲ望ミ、事ヲ
緩ミ、寒暑ヲ避ケ、シテハ漸ク治候アリ

凍トトメ寒ヲ怖レ。我懐メ起ソフ能ハズトシ。
病厥陰ニ伏メ。或ハ下痢ニ四肢冷ハ腸下
痛ミ。脚脛伸ガタク。经络赤リヨリ縮ム如ク。
微項ニ如是モノハ。大ニ厲シ。若シ暑者寒ヲ
歴テ。治セザルノ病人ナレバ。別ニ治方テ思ヒ。
其病ノ新旧ヲ察スルガ如キハ。天眼通推卦
ヨリ。看評ニ來ルヲニテ。攻其病ニ詳悉ヒカシ。

初 脚力痿テ小便不利トス水気ナド

二 肢体厥冷シ或ハ時々腰痛シテ又頭痛シ

一身痿弱ニテ起ソフ能ハズ

三 患寒ノ腰ノ固ミ痛ミ股ニヒキ時々肝

積動キ頭重クシテ足輕ク一肢病重ヤカ

四レ○ 孕婦ハ胎動子痛ノ類心ツクヘシ

四 脚氣衝連ノ恐シナルノ時ナリスニテ肝ト

腎トニカ、リテ、心下痞シ、湿邪深シトス

五水ト血ト、凡ニ結シテ解ズ、心中痞口ヘテ胸

中痛ミ、或ハ腹滿小便不行ノ類、

上頭重クシテ冒シ、又肝積凝テ脇腹如セ、

爰ニ真陽ノ元氣乏シク、故ニ胃ノ氣槎ッ、

腹レシトス、深ク慎ムベシ



比

心脾ヲ皆シ、今腎脾ヲ主トス、水ノマカニ
治ヲ求ムニシ、○胎息ハニ

心下痞シ、頭重ク、常ニ沈々トシ、又熱シズ、又小便

利セズ、水氣ナドノ證ニシテ、浮腫スルカ、脾ニ

湿フツ、ミ、黄胖病カ、何レ再傷ノ虚損ニ

因ルトス、故ニ長フレテ危候多シトス

初足ノ甲ニ、腫氣アリヤ、行歩ナヤミ、時ニ

脇下痛ミ、腹中動悸アラシ

三心痛シテ小腹裏急シ、肌膚浮腫見ヘン

默々トシテ神志昏々。時々惡寒マラレ

三 腰ユリ引キイ冬。腸胃苦滿シテ。行莫

必ズナヤミアリ。是皆世間フヤムトス

四 中脫ニ流飲ヲ畜滯シテ。是カ故ニノ

食飲進マズ。咳嗽白沫ヲ吐ヤ。或ハ肺癰

母瘍ヲ用心スベシ

五 心脾勞極ノ候ナリトス。腎精乏シクメ

己ニ危篤ニ至ラトス。然レモ是ノ身又欲死ニ

向ハントスルノ一機兆マレベシ。此時吉凶ノ岐

ナリトス。又吉凶凶ニ急ナルレトス。故ニ治方ニ

就ク者ハ速カナルニ宜シ。辨タルハ凶ナリ

上 一旦快ヨキニ似テ。却テ痾狀一層フマシ

添レトシ。身体カラ乏シク。或ハ怪異ノ穢症トス

小畜

病脊骨ニアレルコトニ故ニ百治金功フ
是時ニ一連シトス。胎動不安。

惡寒シテ、物ヲ悉ク惡シ、心地ニテ氣ノ引立
更ニ薄ク、人ノ進ムルハ觀ム子心ニ應ズ、又我
思ノ儘ニハ成サレ、事ノ多キト、皆肝癩
ヨリ出テ、時陶トメ神氣屈シテ、咳嗽、發熱ナド
初頭ブラツキテ、足モ定ズ、時々寒熱往來シ、
噫氣除ズ、腿股脚腫必ズ患レ矣

二惡寒ノ、腹中發出テ、夜ニ及テ、脚氣

蒸レテ氣塞ギ、腋下ヨリ筋張り痛ム

三痰血出テ、中焦常ニ熱シ、肝腎勞シ、

見カケヨリハ外傷大ナリ

四血滯ヲ見ハシテ、身大ニ熱シ、忽チ厥冷

シテ、暴カニ下利スルヲマリ、或ハ痔疾下血

脱肛、或ハ兩股ノ内附骨疽ノ類、臨産

ノ占ハ、巴ニ生レシ

五 身體痛ミ、痛風、歷節風ノ如ク、或ハ
腫物ヲ發セントス、心下痞シ、咳嗽出、腹重
上、冷汗出テ、陽神薄ク、腰已下疼テ、起
テ能ハズ、或ハ血證、厥陰病ノ極リトス

☰☳

獲

急劇ノ證候トス、治方異ニ、汗フハ、
急劇ノ證候トス、治方異ニ、汗フハ、
急劇ノ證候トス、治方異ニ、汗フハ、

外來ノ邪ニ感ジ、日晡所發ヲ、甚夕危
ク見ユル、却テ寒ヲ怖ル、此ハ、腰ヨリ背ニ引テ

痛ミ、勿窮シテ、被テ覆フ、頸項ノ痛ム、石シテ
如ク、是傷證ノ、傷寒モ、ホベレ、此證ハ、數言タル
セノ、診スレバ、其病候分明ナリトス
初、身體拘急シテ、寒熱往來ノ中ニ、下
痢數行、或ハ卧テ起ツテ能ハズ

二 邪熱發動メ、盛ノ時ハ、脇下引痛ミ、頭
痛ミ、鼻血出テ、其證劇シ、皆外邪ノ犯スルニ

三邪氣極コリテ陰ニ陷ラントス或ハ陰陽
兩感ノ證候甚危シ若クハ大ニ嘔逆ヲ
災シ又吐逆等ヲ患フルヲアラシム

四大熱ニテ身焦燥スルガ如ク舌心黃
黒ニス胎胷乾燥シ渴シテ冷水ヲ飲下ス
五蒸ニト汗出テ病少シク瘥コトス然レバ
水ヲ與フレバ嬰体ニ又災ス

上證諸症不大便ノ便頭痛ノ腰背強ハル
以時邪氣ノ散漫スルニハ脚ノ人ニウツリ又ハ
其身モ再感ノ如ク痛ヲ増ントス故ニ治方モ
懈ルヲナカレ頭然トノ症ニ應ズル方アラシム若シ
長病ノ後重キヲ極ムルモノハ坎例ニ異ナリトス
推卦天眼通ノ傳ニ由テ病ノ新舊并ビモ
吉凶ノ岐ヲ分明ニ断ズベシ



泰 一氣一之ノ故ニテテ文、身符ハ骨ノ如シト云ル
イ根深シ、若クモ大知ナリトス

久シク元陽ヲ損シテ、本ニ復セザルモノ、一旦
外氣ニ犯サレテ、忽チ陰陽兩感ノ體トナリ、
ソノ陰ヲ除カントスレバ、陽邪充セシトシ、陽邪ヲ
退ケントスレバ、其人ノ真元ニ恐ル、処アリ、故ニ危シ
又是外氣ノ邪ノミニ非ズ、其人則ユリ在ル処ノ
陽ト陰ト相持テ、病重ルトス、坎陽陰ハ乃チ

氣血升降ヲ悖ルノ謂ナリ、又婦人經水逆
來レ適断シ、或ハ血閉等ヨリ引テ大病ニ
至ラントス○臨産ノト占爻位ニ存ス

初 只卧ク養ントテ欲シ、或ハ下痢シテ時々
惡寒シ、足心冷ニ是ヨリ病一層ヲ添シ、臨産安
二 陽神乏シク、陰邪ニ覆レ、候トシ眼イタヒ
昼日ヨリハ、夜陰ニ重キ症トス○臨産安レ

三病往來アリテ證候見定ノガタク。或ハ
厥寒。或ハ熱アリテ。未申ノ時危候ヲ見ス。一
アラシ心ニ動悸アリテ。足ヒキツリ痛劣。臨産安
四病候一段ノ容体ヲ変ズル時トス。今マテ陰
々タルモノ。反テ發熱シ。怒氣強ク肝邪妄行
シテ。陽症ニ似タレド。元陽ノ浮散ヲ怖ルベシ
五面部ニ浮腫ヲ見ス。或ハ鼻。又ハ頭痛シ。

寒。變シ。汗出シ。尻頸ノ辺バカリニテ。全身ニ出ス
上肌表熱シ。頭痛シ。背腹ニカケテ。痛ミ。
氣分塞ギ。或ハ手指疼ム。留飲。淡癩。關
キガタキ證ナリ。然ルニ又。治方ヲ求テ。愈ヘキ
候ヲ含ム。筵ヲヒフ人ヲ。勸マヌニ宜シ

☰☰ 否

否 卦代レテ。本ダ大ニ發セズ。外ニ觀ス。ハ
ス。シケレバ。發シ。治方ヲ求テ。愈ヘキ

夏日本涼ヲ熱シテ後暑邪ヲ伏シ。冬ハ

爐ニ當ル中ニ於テ、快腹ノ間ニ寒ニ中リ、火
毒ヲ帯ル、或ハ宴饗、娯樂ノ中ニ、炎毒ヲ
受ケ、又ハ遊妓ヲ弄シ、娼家ヲ訪テ、便毒ノ
ヲクルノ類ナリ、故ニ即病ノ時、速ク治スヘシ、若
クハ後シテ、長ヒクノ間ニ於テ、言外ノ恐怖、含カ
初、其病ニ感スルヲ、未ダ淺シ、速ニ毒ヲ除テ、治ハ
ニ、毒氣ノ所在、ヨク現ル、知ルベシ、入ルヲ、未ダ

深キニ至ラズ、漸ク結ハントス、治方速カナルニ宜シ
三、邪毒既ニ内ニ及バントス、假令ハ大陽より
陽明ニ入ントス、が如シ、其部位ヲ療メ、愈ベシ
四、寒熱往來、腹滿、胸膈サシキ、脊骨
痛シ、鼻竅、癢シ、耳鳴等、皆傍證ニシテ、
本來ノ受病、増劇シテ、發シ、動クトス
五、熱ヲ發シ、汗出テ、鮮セス、肢、下ヨリ、胸ニ

引テ痛ミ上衝シテ安カラス。○臨産安

上。食飲不進。吐瀉スレテ却テ腹滿テ減

ズ。咽喉氣逆。胸中痞シ。或ハ頭痛ス。シ

皆外氣ノ然ラシムルニ非ズ。是ハ傷胎ノ弊ナ

☰☷

同人

池行ニテ當時世ニノ類ナリ。若ハ
喜也。或ハ温疫或ハ腹痛ノ復

然テ其時ノ氣入行ハルニ感シテ病ハトス

故ニ外證ヨリ能見ユル病ナリ。此意ヲ

以テ隨時ノ活斷アルニシテ尤モ劇甚ノ證候トス

痰壅上衝シテ心氣不抽ノ如ク。殊更婦人ノ

病ハ血壅ヨリ狂乱ノ如ク。逆上シテ血暈ノ

如クナル。皆大切ヲ斷ズベシ

初表壅裏ニ入り。忽チ下利シテ肌膚

大ニ冷厥シ。頭ブラワキ。足痿ニ腰タメズ

眼暗シテ人事ヲ辨ゼザルノ類

二 外未ノ病、今持病ト合併シテ、嘔吐
ヲ欲セントシ、腹痛、眩ヨリ、足ニ引キ、或ハ眼
痛デ、腫スケ出ルガ如キ類、甚ダ危篤トス
三 背ヨリ頭ニカクテ、響ク急シ、表變甚シキニ
ヨツテ、痲痺發動シ、肌膚汗ナク、病天ニ動ク
四 腹塊、血痕結ンデトケズ、骨節痛シ、時々
發熱シ、婦人ハ經水亦アリテ、上逆甚シキ

皆大病ナリ、治方、忽セニスベカラズ

五大 變、燠ガ如ク、精神不定、食不入シテ、

腹痛甚シク、謔言、鄰ヲ驚ガシ、或ハ林ヲ越テ

奔ントシ、兩服ヲ張り怒ラシ、或ハ鬼ヲ見ル状ノ如シ

上 嘔逆、咳、急、等ニヨリテ、腹ニヒバキテ、其

痛ミ、腸ヲ断ガ如ク、神氣、茫々トシテ、只

涎ヲ嚙シ、或ハ遺尿シ、變汗ヲ發スルヲ

アレバ、解スルニアラス、病侯已ニ一變ス



大有

陽邪熾盛ニシテ、灼燬ヲ苦シム、火氣ノ
占山、地、多クシテ、要カラス

火毒、變邪、今時ト旺メ人ニ中リ、吐瀉シテ

大ニ中氣ヲ傷テ、霍乱、淋ノ症候、夢シ、肺氣

焦燥シテ、渴ヲナシ、或ハ咳嗽上逆ヲラン

秘、變邪、溢ル、故ニ瀉下スルコトアリ、却テ腹

和セス、厥、腹痛ニ、病ノ本候、フニ轉テ、枝ダ

陰ノ方ニ、陰ミノ、傷寒、アラス

二、大變ヤ、クガ如キカ、或ハ譫言シ、心、神

既ニ衰、散ムルガ如シ、以時至テ、大切ナリトス

三、惡寒、完、變、咳、急テ、或ハ肝、積、癆、動シ

氣、道ノ井、降、宜シカラス、心、下、痞、ノ類

四、頭痛シ、身、疼シ、心、下、ヨリ、背ニヒキテ

痛シ、初メノ、變、邪、散、解スルコト、能ハスシテ

齒高シ。吹ノ如キノ。倚症多シトス。

五、邪變上衝シ。極マルモノ。終ニ解セサル故ニ。

頭頂痛シ。眼中赤膜多ク。聲啞アリテ。暴赤クニ。

大便渇渾スルヲアリ。却テ陰證ニ變ゼンテ。

神氣常々失ヒ危候ナリ。

上、譫語シ。咳逆シ。時々大發出テ。頭

破ルゲ如ク。全体ノ病候。大ニ強カシクシテ。

運轉ヲ驚カス。證候ヲラシクシテ。長引候。

三、三、三、謙 況ヒトク。持テノ宿病。變レテ。見ヤセリ。ハ。漢ヤ。症ナリ。長ヒテ。下トス。胸脇。痺リ。トシテ。逆。

濕毒ニアタリ。緊々トメ。紫マズ。陰氣ノ常ニ。

寒ノ恐レ。或ハ下痢便毒ノ類。玉莖。極ナルカ。

痛ミアルカ。疝氣。腰脚引キワリ。痛ナテ。行步。

艱難ノ類。是皆脾胃ニ濕毒滯リノ。或ハ。

水腫ヲ生ズセンカ。

初 足心痛ミ。或ハ夜ニ到レバ。眼力不明ナルカ。
二 腰肢ヨリ引テ足痛ミ。時々惡風シテ
又ヨリく上衝スルカ

三 日夜腰脊脊ヲハリ痛ミ。或ハ丹場ヲ
躁シ成ントス。常ニ頭目暈ミテ快然タル時ナシ。
水氣腹中ニ屯レテ攻吞ヲナス。

四 脚脈ヒキツリテ大ニ痛ミ。立テ多ク足腰伸ビ

ガタク。骨節疼シ。時々寒熱往來ス

五 心下痞硬シ。頭重ク足輕クシテ。却テ行
歩ニナヤミ。濕毒下ヲ閉ラ上ニ結ブ

上頭痛ミ。腰脊強急シ。或ハ全身濕ドク

瘡疥ヲ發シ。鼻落ント見エ。又玉莖ニ患アリ

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

肝癩發動。或ハ癩狂ノ類。頓ニ作キテ。人事ヲ

失フ。或ハ平ホトノ怪我スルノ類。或ハ物ニ觸
コリ心氣躁カシクナリ。動悸穩カテ心下結ブ
初心下鼓動シ精神サワギ足ノ踏ム所定ラズ
手ヲ振テ詭言スルノ象

二小腹ニ一物ヲ結ビ硬クシテ時ニ腹胸響
キ并ルカトスレバ直ニ冷汗流ルカ如ク。鑊マルカト
スレバ又動テ更ニ安カラズ

三心下硬滿シ腰脚是カタメニ屈シテ伸ズ
急候ナリ。或ハ癰カニ誤ルヲ慎ムベシ

四一切胸下ニアフマリ脚氣上衝ノ如ク。氣逆
シテ足痿ス。治方漫ニスルヲナケレ

五上衝嘔噦シテ飲食進マズ心下痞塞チ
脚弱ノ證。是最初ノ治候ヲ失テヒ今既ニ
危キニ迫シ氣ヲ治スベシ

上逆氣極マリ促テ襲フ疾レ病候大ロニ
陽症ニ似テ足心ハ却テ冷ルトス



隨

外感ト持テト相合、或ハ大陰ノ厥陰
ト相傳ス、是皆ニテニ一候トス

見カケハ大病ニ非ズ、其初ノ感ズル処亦深ク
ラズ、然レ此日ヲ引テ全ク瘥ズ、其人ノ虛
隙ニ從テ、邪氣漸ク深シ、次第ニ重キニ
到テ、危キ候ナリ、時々寒熱、又嘔氣クラン

初足痿エ、或ハ痛ミ服胸ニ上衝シテ、留飲
不散、咳逆メ氣鬱スルノ類

二嗽喘止マズ、又嘔氣マリ、飲食不進メ、
表層惡寒、少氣トス

三胸膈痛ミ腰ニ引テ、足肢共ニ痺ミマリ、
又癩疹ニ変セン、或ハ眼疾ニ変ヒレ

四心下硬ク結ビ、時々支滿シテ絞リ痛ミ、

服下ヨリ足ニ引テ起居ナヤメルナラニ

五漸ク病邪深キニツキ宿病ト相搏テ

大ニ張動セリ或ハ耳鳴テ頭痛四肢酸

疼寒慄往來シ服カ只見張リ強クシテ

見ルコノ腫神ハ明カナラズ或ハ誰言躁セキカ

上病邪上部ニ鬱塞シテ解スル候ヲ失ス

頭痛不食足脛滿急急結テ不伸トス



蠱

巳ニ野ト謂ト相搏テ野ハ元アリ肝ハ
也ル今本誤讀トス甚ダ重シ

或ハ度々ノ不養生ヨリ起リ或ハ治療ノ

誤リヨリ作り病邪大ニ深クナリテ身体内

虚シテ至テ危篤ノ候トス○臨産亦両全ヲ

助ハリカタシ兒安ケレバ母保チカタキヤ

初病大ニ重シ下利止ミ頭痛小シク瘥但シ

服胸支結神氣不快攻時療治カヲ振テ

狀歌ヲ穰ルベク時ナリ。遊ケレバ山ナリ

二 腰脊頭痛。骨節不便ニシテ。食ス、マズ。
病候已ニ葛シ危レトス

三 足腰痠弱ニメ。起居不便。小便不仁シ。頭
重ク。黙ミトメ。治政ヲ見ル日少シトス

四 病邪上衝シ。嘔吐噎叱逆ノ類。或ハ痰熱。
惡寒。暴カニ瀉下シ。食不進危レトス

五 躁シク。又黙ミトメ。靜カニ時々惡風シ。嘔

吐ヲ發シ。下利メ。食氣不進。或ハ股足引分

痛ム。是又肝脾ノ穢傷ニシテ。極メテ危トス

上 頸痛シ上逆シ。又ハ穢證ノ傍枝ヲ種々

病シトス。危篤ナリ。然ルニ此時ニ於テ。脾ト

肝ヲ平和スル方。茶餅食ヲ以テシテ。其人狀

瘥ヲ覺ユル寸ハ。治候ノ天幸トス



臨

臨ニアリ、大ニ大ニシテトス、是ハ勝ノ
寫スルヨリ、詳ト詳トシテ交フズトス

身重ク肌肉癢シ、足モト不収シテ、脚下痛シ、或ハ
腹鳴リ、痰油シ、食不化、或ハ浮腫、或ハ咳嗽、又ハ
短慮ニナリ、少シノリモ悲ニ怒リ、堪忍ノ意ニモ
○仕職ノモノハ收例ニ非ズ、安シト断スベシ
初 甚タ危シトス、小シモ治方加養ニ許フ寸ハ
起ツワカタクカラシ、若シ踰月累年ノ病ハ治候ヲ

得ルヲアラシ、臨産鉢格好レバ安シトス

二 少瘥ニ似テ、又劇甚ナリ、治方神妙ニシテ、

愈ルヲ得シ、若シ一タビ誤マレバ急変アラシ

三 喘咳、嘔吐、腰痛、腰折、骨如ク、時々悶ヘテ、

氣絶ントシ、息ヲ藝カト先レバ、冷汗出、呼吸既ニ

接續シガタキ程ノ危候トス

四 足引キ痛シ、咳出テ、腹下ニトキ、短氣促

迫ニシテ肩ニテ息ヲフク。是又危候トス。

五心下硬クツカヘ。飲食不進。持病ノ癥瘕。上
衝シテ。氣息瀕ス。○胎弱ハ平ナレバ。若臨産
ナレバ。碓礮ヲ用心スベシト。断ズベシ。

上頭痛。又ハ背ニ凝リテ疼ムアリ。此時ニ於テ
治方ヲ得レバ。久シキ病ハ愈候ヲ得ルヲアラシ
又急病ノ者ハ甚ダ危キヲアルベシ。



觀

大。神氣ヲ乱リ。觸レテ。危。右ウ。致ル。カス
ホ。ノ。容。休。多。ク。マ。ン。大。機。ハ。決。身。ニ。盡。ト。ス

頭項強ク痛ミ。外邪ノ表証ニ似テ。惡風ホウ
熱ノ中ニ殿ミ。或ハ背ヤ腰ニ痛ヲ引キ。或ハ頸ニ
觸乱メ。心志不寧ニナリ。察メ言ヌカトスル内ニ。又
不揃ノ言ヲ發シ。或ハ戶外ニ出テ走ラントス。是ラハ
表証凡云カタシ。是皆厥陰肝ノ動作ノ安カラヌ
ナリ。段々重ルヲアラシ。速ニ治方ノ的診ヲ索ムベシ。

○胎孕不安ケラズ。然ルニ臨産ノ占。他ノ卦ヨリレテ
坎卦ニ來レバ。頻ニ生ル。ト斷ズル活アリ

初治方ヲ初ニ用心スベシ。脚氣ヲ傷寒ト見損
スル類トカク治ヲ誤ルヲ用心スベシ。故ニ爻ヲ病ム
カトスレバ。實ハ彼竹ノトアリ

二病肝腎ニ陷ル。小便不禁。腰ヒヘ頭フヲサキ
或ニ心氣定マラズ。久シキ病ハ治候スルベシ

三久病ハ。眠ク重キニ到ラン。脚痛ハ持病ハ。狂

積ノ類。時急ト比ニ合併シテ。強ク疾ルトス

四病此項ヨリ。眠ク長病ニトラス。久シキ病ハ
此場ヲ凌ゲハ治センガ。然レ比純善ヲ告カタシ

五陰ニ鬱ミトメ。頭重ク。足立ツフナヤミ。或ハ服

瀉。温瀉。黄肝ノ類

上怔忡。目クラミ。頭瘡。浮腫。濕發ノ久シク

寫結モテ已ニ治候ヲ過ルトス

☰☳

嗑此カナラズ。状然トシ。障リ塞クモノアル。因テ然リ。其本同ノ除クベシ。除クベシ。

外來ノ邪急ナク結胸ノ状ニ似テ心下胸中
ヲサギ。是ヨリモ戰慄モ發熱モ出入スルヲ
又ハ飲食滯停ヲ解テルニ依テ霍亂病ノ
類ナリ。此停タイノ物ヲ速カニ解クニ若シ緩
懈ナク急變ヲ見シ或ハ持病ノ積塊胸腹

迫リ衝キ顛狂ヲヨク發スルノ類。○胎孕兩全ヲ

タモナガタロシ

初兼テノ病根。坎動ニ動キ夫トハナク大ニ發熱シ
只心下ヲ苦悶ス。速ニ其因ヲ去ニ宜シ。發熱ニ發
キテ。沈窒スルヲナカレ

二上熱スレバ下冷シ。心下中レ安ケル。腹ヨリ

是ニ云フン出來ルカ。然ルニ此病ハ病根ノ見ツケ

安ク治法ノ定ムル時之。医ヲ撰ムベシ

三吐瀉大變。謗言。鬼ヲ見ル状ノ如ク。心神
散漫シテ安カラズ

四玖トキ病根極マルトス。治候アルベシ。若シ食
不進カ。腹滿。腹痛強ク。脇下ヨリ足ニ引キ。痛
ムモノハ。又一層ノ劇ヲ添シ。然ルニ臨産ノ筈ニハ
安レト斯スルコトアリ

五頭痛大變。或ハ足痛ニ。又ハ寒を戦トスルウチアル

ベシ。攻時治候ヲ待テラマリ。明診ヲ索ムベシ

○胸産サレク驚キアリ。然レモ体擔正シキ者ハ安
上病源終ニ不除。上衝シテ危篤ノ候



賁

ナニニ深キニ至レリ。故ニ一子ニ非ズ。必ズ必ズ
是ト合候ヒニトス。内ニカテ相カト云

外氣を感ヒタルハ。必ズ持病トカ子動キ。食飲ノ滯
解セシムルハ。必ズ又外感ト相俟ブ。腰痛ニ。小便快通

又、惡寒ノ日、睡ユリ、晚暮へ、發シ疾シ、夜汗イデ、
又ハ頭痛、眼暗シ、氣力引立ス、ナク、長ビク申、疾
ヲ、勞瘧ト云知ク、内虚甚シトス、胎弱、安カラズ
初、項背拘急シ、腰疼シ、小便速ク、撒子腎
間ノ邪、解セズ、又肝臟ニカケル

二、頭痛一層ノ劇フ、溼レ、吹時治候アラシ

三、心脾ノ勞極マレ、危候ニ迫ル、若シ食スル

味ニラバ、保ツテ神治ヲ候ツセ

四、心神定ラズ、時々虚發ヲ覺シ、恨ミ感リテ、昏
シテ、藥効ヲ見ル、速カラシ

五、發作時々ニ容蘇ヲ同フセ、惡風カトス、バ、雙レ

頰、項痛シ、又腹中刺レ痛シ、澁候トリ、ナク、危レ

上、厥陰ニナリ、吹時ヨリ、治候ヲ滑レ、或ハ愈ム、アラシ

然レ、此、治ノ、始メ、○臨産ノ時ハ、速カニ、速セ、トス

胎前

卷二

産後ノ慎ニヨリ、血脈ノ旺レ復スルヲ安カク

刺チハシ チハシ一穴ノ也ニ言フノ故ニシテ、外面ニ刺シ、

身重ク肌肉痿シ、足行ヲ收メズ、或泄瀉シテ赤

思慮愈々トノ急ス、頭重ク背強リ、養ニ又服ノ節

取リハリ痛ミ、或ハ痔瘻、瘡毒、段々ト沈重ニ至

胎孕安カラズ、臨産ノ莖兩全ヲ斷ズルヲ無

ナリトス

初 頭重ク脚弱ク、足ノ筋骨急ス、時々下利

清較、腸胃苦熱シ、香味ヲ好キ、茶味ヲ嫌フト

二 小便液リ、頭眩又、前胃シテ、人事ヲ失シ、瀉

シテ、左右ヲ知り又、心氣乏シキナド

三 腰痛又ハ瘡瘍ノ痛ミ、總テ、玩ロアルカ、膿水

腐臭ノ類、大概腰ヲ伸テ起ツト難カラシ

四 虚寒ヲ来シ、心下脇胸支結メ、痛ム処アリテ

秋涼一段ノ劇證ヲ増シワラン

五頭アラツキ目モ立テ思ハレ或ハ腹中拘急
或ハヒツケ又心神已ニ洩散ヒシトメ吉詒親藥モ

踏乱セシトス

上 膝血出又頭眩戰寒ス臨產安後ト氣痛便

後 馬牙ハ産後ハ此年産後ハ又ナラフ
久イテハ此年産後ハ此年産後ハ

脹露リ足酸疼時々脇下痛ミ靜ガナルカト思ハ

忽チ動キ又頭ニ快シ是持病ノ肝積病辭

類多クハ一旦ニ強ク發メ時ニ安キニ向フ

治リテ後二七日カ又ハ明日其時刻迄ノ再

發ヲ用心スベシ

初 強ク發メ躁カシケレ程ナク治ルベシ

二 腹痛アリ咳出テ痰塞ギ胸中結痛シ足

脚痠シ戰寒アラシ皆陽ノ元ニ復スル治方ニ

宜シ故ニ病ムト云レ其入ノ真元実ナル故ニ
二腹間疼痛シ腹鳴リ又疼ニ役中陰氣ニ
表ズレハ病弱登ニリ強ク坎時眼病ヲ懷ベシ
四積塊心胸ニ裏ニ迫リ悶絶スル程ノ急
候ナリ然レ治方的當スズレ臨産ハ速ニ平チ
五心下支結シ頭重ク足輕ク汗出テ解ス
脚變リ急メ病ニツキ已來ノ重キ時トス懷テ

治候ヲ尋テ子ハ乃チ元陽ノ原ニ復メイエシ

上坎時ハ最ハヤ性來蕪作ノ急劇ハナクテ

只病勞ヲ養ヒ復メ治セン若シ俄ニ甚シキ補

養滋厚スベク却テ勞復ノ病トナシ懷ベシ

☵

元妄

時ノ左右ヲ醫カス程ノチ候アラシ然レ此候ヲ治スルキハ急ニシテ胎孕子嗣ヲ懷ベシ

寒著レニ表ニ夫トナク裏ニ大ニ動ク内ノ動キ

ヨリ蕪レカ子テ戰寒又ハ悶乱或ハ腹中切痛

雷鳴下痢清穀。譫語種種。ノ異證ヲ見ハス。

然レモ定然タル活法イラン。神診ヲ索ムレ。

○胎弱ハ夫婦ノ慎ヲ重レトス。若シツ、ムレバ

胎動アリ。甚シキハ子癩ノ候ヲ發セン。但シ胎

息ヲユク調スレハ。胎子安カラシ。

初 坎時ヤ、モスレバ危キニ至ラントス。能ク病ノ主

ヲ見定ムレ。○心下痞ニテ脚氣ノ本候、足痿

弱トレバ、實ハ暑邪ニ感セシテ脚氣ニ非ス。婦人

ナレバ妊兆ナレテ却テ異策ヲ用ヒ坎ル。是等ノ

注會ヲ明カニシテ、治候ヲ誤ルヲナカレ。

二 此セテ病原ノヤウス分明ニ見ユヘシ。治方イラン。

三 腹痛、腸下瀉、發熱時氣ニ中レシ容鉢令

座然タリ。治法スヲレテ手檢レウト見ユレトリ。

四 腸下ニリ足脛ニ引キ痛ミ、寒熱往來シ

古書考

與ブラツキ。是マデニ治候ヲ過ヒレ故ナリ。

五、心胸痞塞シ。時々塊物胸下ヨリ動トテ

サシコエ痛シ。飲食オサマズ。寒子ツキマズ。時々

眼ヲ張リ肝積怒張ス。

上、喘氣急ナルモノハ大切ナリ。氣ヲ吐逆カ嗽

何レ危急ノ候トス。○指負ハセキニ居ス

☰ 大金曰 危篤ノ候ニハ此ノ症アリ

頭痛マズ。咳出。時々怒リ肝積動キ。又

瘰癧結核。又ハ背中ニ癰疽ヲ發スルノ數。又ハ

身終身息メ。動作ニ不便ナルカ。心神然トシ

ツ子ニ變色アレカ。皆是肺氣ノ伸ズ。肝氣ノ鼓

動ニ過テ病ハ処方トス。

初頭痛破ルガ如ク。時々下痢メ。又氣息ヲ

失ハントシ。容態甚タ危レ。病方スハ厥陰ニ屬ス。

二 本症ニ必ズ深モノアリ。持病ト外邪カ。又頭
 痛ト腰痛カ。或ハ痔溼瀉血メ眼暗キカ。何レ
 合從シテ病処アラシ。是皆脚金ノ位ヲ失ニシ
 三 此時肺氣少シ聞キ。氣力原ニ復セントス
 四 是ヨリ先ニ治候マシテ。惜ヒカナ其時ヲ延
 シテ。今已ニ大病トナレリ。吉凶兩岐ノ懷ニ
 神醫ノ治ヲモトムベシ。容易ノ時ニヤラス

五 頭フラツキ。氣色鬱肉シク。時々惡風。是全

一 氣病ノ場多シ。初メ其鬱ヲ治スル。悠緩ナ
 シユヘニ。致ストコロナリ

上 此節マテ保テバ一旦愈ル候マシ。然レモ忽チ
 劣復ト大病トシテ恐レ懷テ。治効ヲ保ツベシ



頤

是處過多ニ氣虛病カ。日漸チ弱ク。内
 障液ヲビニ。深變味ト成テ。黃病トナランガ

食物停傷セシカ。常ニ大瀉ニヨリテ。絡脈ヲ傷カ。

腎氣勞極メ今足脛酸痿スレカ瘡毒ノ骨節ヲ拘急スレカ必ス時々ノ疾、痛アル病ナラン。大概脾胃ニ濕熱ヲカセテ成リテ病ナルベシ。

○胎前ハ安シトス但レ食飲慎ムベシ。
初強テ歩行シ起坐セシカノ勞ニヨリ、又ハ強テ食フマシヤ物ヲ喫ヒ、飲ムマシキ品ヲ飲テ、病ヲ重クス。皆拔ヨリテヤマルノ病候要シトス。

二此時速カニ治方ヲ索テ、病原ヲ除クニ

三先ニ治候ヲ失レ爰ニ至テハ、兩證雜出ノ外邪ハ、復陽兩感、再傷ナク、濕熱ニ積氣ト云々如ク、合ヒ併フ病候トナルベシ。

四心下支結、又ハ脇胸劇動シテ痛ヲ引キ、或ハ口中津音爛ミ、或ハ壅中息肉ヲ生シ、肝火亢リテ時ニ怒風、又ハ變ヲ發ス。

五寒入往來。脇胸苦滿。足脚骨急。

藥キツヨキ時ハ目ヲ引キツケントス

上 濕發黃色ヲ發シ。頭痛破ルカ如ク。甚ダ

危篤ノ境ナリ。然ルニ兩感ノ證今純ニ歸ス。

若クハ治法ノ神活ヲ得ン

三三三 大過

自身惡クテ。無理ニ歩ク受レ難クナリ。故ニ
良師ノ鞭多シ。速クハ段ニ治スレバ治ス

吐瀉止テレカ。是救ニ飲食セレノ愆ナリ。又ハ

強テ遠方ニ歩交シテ。腰脚痛ミ引カ。必ズ腰

中ニ物アリ。早ク是ヲ除テ和スレバ。愈レ候ハ

ラシ。婦人ハ經閉ヨリ出來ル病トス

初 瀉ヤメバ吐却テ去シ。病轉變セントス候ニ

能ク調理セバ。即病ハ速クニ治ヒン。久シケレバ言フ

コトハリ。カタシ

二病已ニ轉旋セリ。脚疾ニ腰伸ズ。時々吐

逆、咳、唾、多ク、心下痞、往来寒熱、アランカ、
然レ、死、神、診、治、効、ヲ、見、ル、ア、ル、ベ、シ

三、此、時、病、勢、折、クル、ヲ、見、テ、速、ク、ニ、治、方、ヲ、定、ム

ハ、ヤ、心、志、ル、ナ、カ、レ、○、胎、弱、志、ナ、シ、ト、ス

四、是、時、人、性、來、反、復、メ、長、ヒ、ヤ、テ、危、シ

五、惡、風、痰、熱、或、ハ、下、痢、腸、腹、疼、痛、心、下

破、ク、氣、逆、モ、又、塞、ク、ト、ス

上、頭、痛、眼、暗、或、ハ、大、ニ、惡、寒、シ、或、ハ、下、痢、シ、テ

危、篤、言、外、ノ、節、レ、アリ

☵☵ 坎

坎、一、朝、一、夕、ノ、二、難、ク、若、シ、逆、シ、ト、キ、ト、ス、大、
宗、ル、一、既、ニ、深、シ、治、難、ク、不、見、ノ、也

大、概、裏、虚、ノ、病、ト、ス、肝、腎、ト、モ、ニ、病、シ、テ、海、リ

ニ、血、脈、ト、相、搏、キ、下、痢、水、腫、盜、汗、吐、血、咳、吐

中、滿、血、雜、リ、心、氣、沈、黙、メ、起、テ、一、頓、ク、或、ハ

年、高、キ、積、塊、共、證、ヲ、變、メ、種、々、ノ、枝、症、ヲ、見、シ

瀉血ヲ便ニ下シ。或ハ下毒濕癆。既ニ治候ヲ
スギ。或ハ極マリテ百治。初ヲ不見ノ類。○婦人ハ
崩漏。脱血。帶下ノ治。候ヲ失ヒテモノ。若シ
胎弱ノ安否ヲ莖スレハ。又上ニ云。所ト異ニ
能ク調息シテ。腹背ヲ慎マ。保テ得ルトス
然ルニ産後。血脈ノ擾原ヲ至テ切緊ニ用心
スベキニ。

初 飲食進マズ。心下留滯アリ。宿水化止ス。
是ヨリ次第ニ水氣カ。血證ノ勞胸トナラン
二 心下痞硬ニシテ。腹虚軟ニカク。起ツ
難ク。足甲浮腫ノ類。危篤ノ候トス

三 時々嘔吐。暖水。又下痢。或ハ急ニ陽劑ヲ
服シテ。兩便閉極。又大ニ水滯シテ。慄々トシテ
寒ヲ恐ル。思慮短ク。治最難ナシ

吐マム六渴シ。飲ラ喫レ六却テ吐キ出シ。又小便流リ食進マス。五寒戰ヲ發シ。腹下結痛急ニカクテ寒。小腹ニ凝カトスレバ。忽チ既ニ六脈伏ルテ危候。言外ノ摸トナクシ。

上上部口鼻ノ氣甚ク臭ク。又腫ノ聲ニ散セントメ目ツカヒ恐ク。下部ノ脈厥モ。肌膚

冷テ病候更ニ取シマリ無シ。草根樹皮ノ陽劑ノミニテ。救フテ遠カラシ。臨産ノモノハ已ニ分娩スベキノ候トシ。胎弱ノ安否ヲ問。安カラズトス。



離

心氣勞極ノ事。治候ヲ見ルテ遠シトス。一且愈セントノモ亦重ラントス。

種々ノ枝證多クシテ。何レヲ本病トモ見定メ難ク。心神狂ノ如ク。大勢出ルバハ陽症ノ

傷寒カト見へ怒リ罵ルハ肝積ノ發動
也又ハ傷寒ノトノ譫言カト聞ユ○小異
驚風ノ劇證或ハ痘疹ノ猛烈ナル發熱
ノ類○婦人ハ血癸妄行ユリ心神ノ守リヲ
失ヒ癩證又ハ顛狂或ハ肝積ノ驚レ狂
マタル者ノ俄頃ニ大ニ蕪スルノ類

初發アリテ腰折ルガ如ク足踏ニ処テ定ム

語去テ下リ足ノ如ク心神更ニ定マラス

二灼發猛烈ナレバ其寒ハ得虛ノ陰火ヲヤス
トラン傍證ヲ端ナルベシ

三心下ニ支エ又少シノ飲食モ菜モ胸ニ違付

シテ舌サマラセ或ハ齒ヲ咬ナラシ或ハ怒リ叫ビ罵

シ候至テ劇ニク肌癢甚シトス

四心火少し解カナルニ似テ又一ツノ別證ヲ

添工榮レ、爰カユケレバ、彼処ヲ患ヒ、昼少シ間
ナレバ、夜ハ大ニ患キ、類、上逆頭痛、何レイモ、処、
五、一般ノ外邪、表、裏ノ実證、ヲ見、言、時、ナ、
然ルニ、寒、劑、ハ、及、ス、レ、陽、劑、ハ、身、ヲ、侵、セ、見、ヘ、ス、
難、治、ト、ス、

上、心、臟、熾、エ、極、リ、テ、此、時、救、フ、イ、ハ、大、ニ、ナ、
古、易、病、漸、卷、之、上、談、

此、初、ニ、四、十、二、ノ、リ、法、和、ヲ、ト、ス、ル、也、

雜、書、

此、
刺、

卷一
一

西漢書
三十一卷
古易尚書春秋之類

